

自然環境基礎調査（富士見地区）業務に伴う 「イトイバラモ」の確認について

～本州中部で2例目 泉の妖精「イトイバラモ」の確認について～

1 概要

平成 21 年 5 月に合併した富士見地区における自然環境を把握することを目的に「自然環境基礎調査」を行ったところ、赤城大沼で「イトイバラモ」という水草が発見された。

本種は、「環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」で近い将来における野生での絶滅の危険性が高い区分である「絶滅危惧 IB 類」に位置づけられており、県内初記録であると共に全国的にも記録が少なく、その生態はほとんど解明されていない。

富士見地区では、これまで全ての動植物分野を対象とした調査は行われたことはなく、今回の調査により本種のような絶滅危惧種を始め、多くの動植物が確認されており、赤城山を中心に貴重な自然環境が多く残されていることを証明する重要な結果が得られた。

今後も調査を継続することにより、本市の豊かな自然環境の保全に努めることとしたい。

2 「イトイバラモ」について

(1) 和名：イトイバラモ（イバラモ科イバラモ属）

(2) 学名：Najas yezoensis 【ナジヤス(ナヤス)・エゾエンス】 ※「北海道(蝦夷)の 泉の妖精」という意味

(3) 特徴：淡水の水中に生育する沈水性の一年草で、葉の幅が1～2mmもあるイバラモに比べ、0.2～0.4mmと糸のように細く、和名の由来とも言われている。



※大森威宏氏（群馬県立自然史博物館）のコメント

今回の調査結果で最も大きな成果はイトイバラモの確認である。

県初記録、環境省 RL で絶滅危惧 IB 類であることはもちろん、全国的に記録が少なく、（北海道で発見された種であるが）本州では青森・秋田・山形・福島・神奈川での記録しかなかった。今回の大沼での記録はこれらをつなぐ位置にあり、山地での分布を考える上で非常に重要である。

大森 威宏(おおもり たけひろ)氏
群馬県立自然史博物館 学芸係 主幹

- ・群馬県希少野生動植物種保護条例検討委員会委員
- ・群馬県環境審議会委員
- ・群馬県自然環境調査研究会会員
- ・前橋市自然環境保全推進委員
- ・環境省第三次植物レッドリスト改訂作業群馬県主任調査員

などを現任

《専門》

植物生態学、分類地理学(ヤチヤナギの種生態・群馬県産絶滅危惧植物の分布・上信越地域のカタツリグサ科の植物地理)

《所属学会》

日本生態学会、日本植物分類学会、植物地理・分類学会、種生物(しゅせいぶつ)学会

【参考】

(1) 「環境省レッドデータ」による区分

略称	区分	基本概念	例(同区分に位置づけられる種)
EX	絶滅	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。	クニマス、ニホンオオカミ など
EW	野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種。	トキ など
CR	絶滅危惧 IA 類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。	コウノトリ、イリオモテヤマネコ など
EN	絶滅危惧 IB 類	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。	ムツゴロウ、イヌワシ など
VU	絶滅危惧 II 類	絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	アホウドリ、オオクワガタ など
NT	準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	ヤマネ、オオタカ など
DD	情報不足	評価するだけの情報が不足している種。	エゾシマリス、オシドリ など
LP	絶滅のおそれのある地域個体群	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。	石狩西部のエゾヒグマ など

(2) 自然環境基礎調査・自然環境調査の実績

年度	調査名	調査分野				調査範囲													
		植物	鳥類	魚類・水生生物	哺乳類・は虫類・両生類	昆虫	本庁	上川淵・下川淵	芳賀	元総社・東	清里・総社	南橋	清里	桂萱・永明・城南	大胡	宮城	粕川	富士見	
平成9～10	自然環境基礎調査	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成11																			
平成12																			
平成13																			
平成14	自然環境調査(植物調査)	●					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成15	自然環境調査(鳥類調査)		●				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成16	自然環境調査(魚類・水生生物調査)			●			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成17	自然環境基礎調査(大胡・宮城・粕川地区)	●	●	●	●	●											○	○	○
	自然環境調査(哺乳類・は虫類・両生類調査)				●		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成18	自然環境調査(昆虫類調査)					●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成19	自然環境調査(植物)	●					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成20	自然環境調査(鳥類)		●				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成21	自然環境調査(魚類・水生生物)			●			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成22	自然環境基礎調査(富士見地区)	●	●	●	●	●													○
	自然環境調査(哺乳類・は虫類・両生類)				●		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※自然環境基礎調査

当該地域における自然環境の現況を整理するために、全ての分野を対象に実施する動植物の種数調査

※自然環境調査

自然環境基礎調査を実施した地域における経年変化を把握する目的で分野別に実施する追跡調査